

【一覧】

1.ごみの減量

2.ごみの分別

3.花・緑化

4.不法投棄

5.省エネ

6.自転車

7.美化

8.食品ロス

9.環境問題全般

10.生物・自然

11.その他

堺市中区地域計画における分野別要素“環境”に係る取組の推進について

1.ごみの減量

伊藤久美子	省エネ、リサイクル資源として、ペットボトルやプラスチックごみのリサイクル活動に、町ぐるみで取り組むなど、中区としてエコロジカルなまちづくりの推進に努められたら良いのではないかな。
藤田浩子	「4Rってかっこいい！」企画を提案。区内の高校・大学生とコラボし、自分のものをおしゃれにリメイクして使っている姿をPRしてもらおう。流行を作り出すのは高校生である。安くて新しいものが手に入る時代だからこそ「修理して使う」のがかっこいいと感じさせる。「リメイクがおしゃれ」という流行を作り出せばみんながリユースに関心を持つのではないかな。
藤田浩子	「4Rっておもしろい！」企画を提案。子どもだけのフリマを開催する。不要になったものを捨てるのではなく必要とする人に使ってもらおう（リユース・リサイクル）。子どもだけですることで営利目的にならない。売るのも買うのも子どもだけのフリマをすることでリサイクルと同時に金の使い方や稼ぐことの大変さを学べる。そして物を大切にしようという心が育つのではないかな。
松居勇	子どもたちに『楽しくエコ活動』してほしい。その姿を親世代にも見てもらい影響を与えたい。 話題になることをやって「中区は環境啓発でおもしろいことをしているな！」と市民に気づいてもらいたい。 (案) ペットボトルイルミネーションin中区役所or深井駅前 近年は、南区「キャンドルロードminami」や西区「インスタNight in 鳳大社」など、区役所が推進するイルミネーション活動が市内でも目立っている。中区では「エコ活動」も取り入れたイルミネーション活動を行ってはどうだろうか。府大生（ほか区内の小中高生など）が制作する。目的は環境啓発なので、例えば学校で環境学習を行い、そのうえで各自がデコレーションしたペットボトルを1本ずつ預かり、それらを合わせて設置するなど。 (継続するのかわからないが中区ハロウィンキャンドルナイトとのコラボも？)
森田裕之	大学生協との取り組みとして、大学内で大量に発生するペットボトルや資源ごみのリサイクルが考えられる。最も多いものはペットボトルであると思われるが、ペットボトルは回収が必要であるものの、金属資源などとは異なり、買い取りは困難である。しかし、マイクロプラスチックの問題は重大な問題であり、必要な取り組みであると思われる。この取り組みに必要なのは、回収だけでなく、フタやラベルを分離すること、そして中を水で洗浄することである。回収は大学で利用している自販機のごみ箱から行うことは可能であるが、当初は回収を実施しながら前処理が必要であることを周知していくような活動が必要であると思われる。大学生協は以前より同種の活動を行おうという意欲はあり、学生の活動としても行っているため、コラボレーションも可能であると思われる。対象は基本的に小学生や中学生が望まれるが、それ以外の年代層の参加も良いかと考えられる。
小倉弓果	4Rの中でもリデュースは優先順位が高いので、必要な分だけ買う、賞味・消費期限の近いものを選ぶなどのポップを店舗に置かせてもらい、ごみ削減を啓発出来たら良いのではないかな。
小倉弓果	飲食店やスポーツ関連施設、公共施設など様々なジャンルの施設でマイボトル持参者に無料で飲料水を詰めるサービスをしていることをアピールしてもらえたら、マイボトルを持ち歩きやすくなるのではないかなと思います。
高田彩加	4Rのうち、特にごみの減量化につながる「Reduce」や「Refuse」に対して区民に積極的に取り組んでもらう必要があると思う。ごみの減量化に取り組んでいると答えている人の割合は高いが、実際にどれくらいごみが減っているのかは分からない。家庭内でのごみの減量化のため、ごみ減量のためのアイデアを募集して紹介してはどうか(前回のコロナ対策アイデア募集のように)。
高田彩加	リユースフェアを実施する(区民から本や食器、家具、おもちゃなどの不要になったものを集めて、必要な区民に譲る)
陳代修平	熊本市水俣市の「紙袋〜ぐるぐるBOX」のように日常的に使えるリデュースBOXを設置してはどうか。府大内では以前、「環境部エコ助」がリパックの回収箱を常設していた。愛媛大学生協では回収ボックスを三択クイズにするなど、楽しみながら、分別に参加してもらえるよう工夫しているらしい。また、エコショップ認定制度との棲み分けは必要かもしれないが九州7県では「九州まちの修理屋さん」という修理を引き受けてくれるお店の登録制度があるらしい。区民一人一人が取り組める環境づくりとして、『関わりしろ』をたくさんつくっていく。
陳代修平	新しいものを買わないようにリデュースの工夫をしつつ、「修理して長く使う」、ものを簡単にごみにしないようにリユースの取り組みをすることで、ゼロウェイストに向けて取り組みを進めていけると思う。区民の行動を変えるのはこの2Rでは。
陳代修平	中区内の農家や飲食店と連携して、家庭やお店からでた生ごみを「生きごみさん」で堆肥にし、それを農家さんに使ってもらって農産物を生産してもらおう。そしてできた農産物を地元飲食店で使うなどの地産地消の取り組みをしてはどうか。
陳代修平	「Osakaほかさんマップ」の掲載店舗を堺市でも増やすのはどうか。
山口睦季	使い捨て容器ではなく、繰り返し使えるボトルを区民に使ってもらうことで、家庭のごみ(特にプラスチック)の減量に対する意識の向上をはかるため、親子(もしくは子ども)で参加する「マイボトル作り」を企画してはどうか。 子どもでも理解できる程度でSDGsや地球環境問題について説明した後に、「マイボトル」を作る。コロナ禍で開催することが困難かもしれないが、マイボトル作りは100円ショップで販売されている道具で作る方法がインターネットに記載されているほど簡単で、家庭でも比較的取り組みやすいため、イベントの開催が困難でも、広報に記載して区民に取り組んでもらうことも出来るのではないかと考えた。

堺市中区地域計画における分野別要素“環境”に係る取組の推進について

山口睦季	広報に「ゆずります・ゆずってください」のコーナーを設けてはどうか。 使用可能だが必要でなくなり誰かに譲りたいもの、今だれかに譲ってほしいものを載せるコーナーを作る。ものの説明だけを匿名で載せて、区に連絡があれば掲載者の連絡先を伝える。粗大ごみの減量、不法投棄の抑制に有効なのではないかと考えた。
脇田利奈	リサイクルなどに取り組んでくれている人たちに、小さなことでいいので、「ありがとう」や「すごい」を伝えられる仕組みがあるといいのではないかと。（例えば、「いつもリサイクルありがとう」というポスターやチラシが1つあるだけでも、気持ちいいし、続けたいかなのではないかと思います。）

2.ごみの分別

金澤正巳	個人としては、ごみを捨てる際にペットボトルはラベルをはがして中を洗って、ときちんと分別したうえで、適切にごみの回収日に捨てているが、正しい分別の仕方や、回収日についてきちんと区民の方に浸透しているのか、周知が不足しているのであれば、きっちりと伝えることがまず必要ではないか。
金澤正巳	電池などのごみについては、販売店等の回収場所に持ち込んで廃棄することとなっていると思うが、あまり数が出ず、わざわざ持っていくのは手間だと感じる人もいると思う。もう少し便利な捨て方があればきちんと捨てる人が増えるのではないかと。
中辻さつ子	みなさんきちんと分別して出してくれている。ずっと住んでいる人にはきちんとごみの収集日や分別のルールが周知されていると感じる。以前、引っ越ししてきた人がプラスチックの回収日に生ごみを出してしまっていたことがあった。自治推進課から看板をいただいて周知を行って改善された。
高田彩加	リサイクルやリユースの推進のために、分別の間違いを減らすための取り組みやリユースする機会が増えると思う。ごみ分別やリサイクルに関する情報を含むカレンダー（ごみの日や分別方法が書いたカレンダー）の配布、または広報紙などでごみの分別について改めて周知してはどうか。
米田 啓吾	府内でも、地域によって分別の差があるのが現状。リサイクル可能なものを増やすことで限られた資源の有効活用を促進してはどうか。
脇田利奈	（企業も同様かと思いますが）大学は様々な地域の人が集まるため、ごみの分別について各地域・各家庭の基準でやっている人が多いため、中区のルールをもっと浸透させる取り組みを府大のボランティアセンターなどと共にするのではないかと。
脇田利奈	令和元年度堺市市民意識調査を見ると、8割以上の方がごみの減量やリサイクルを行っているのはすごいことだと思うので、それぞれの取り組みを聞いて広められたらより良いのではないかと。
脇田利奈	ごみ捨てなどを主婦が一人でやっているという家庭も多いのではないかとと思うので、家族ぐるみでリサイクルや分別について意識できるような、家族向けのごみに対する意識向上講座などがあると良いのではないかと（ひとりひとりの意識向上をすることが大切だと思うから）。

3.花・緑化

金澤正巳	花と緑の活動については、中区役所で実施している「中区花いっぱい魅力創造まちづくり事業」で半年に1度、地域や公共の場に植えるための花苗を100株程度いただいているが、地域を花でいっぱいにするには数が足りない。現状の数では各校区に配分すると少なすぎるため、東深井校区では一つの校区にお任せする形になっている。
澤本美奈子	花輪の活動を続けながら、学校の花植えなどの協力をして、地域と学校と子ども・保護者の関係をつなげることにより、地域活動が活性化されると思う。
静又三	花輪さんなどの花のボランティアグループの活動をもっと活発にするのが大事だと思う。ただ、ボランティアグループに任せきりにしてしまうのではなく、自治会等とお互いに助け合いながら分散してやっていくことが長く続けるには必要だと思う。
中辻さつ子	花と緑の活動について、花いっぱい魅力創造まちづくり事業でいただいた花は地域の会館等で植えさせていただいているが、地域住民の方の関心が薄いように思う。もっと若い方が立ち止まって手伝ってくれば・・・と思う。ボランティアによる高齢者のお宅訪問の際に花を一輪持っていきようにしており、すごく喜んでもらえる。
山本章雄	花と緑の活動支援について、区内でどのような活動が行われているのかを把握する必要があると考えます。自治会・任意団体・企業・学校などが緑化活動をしておられると思われますので、この全数調査を実施すると同時に、困っておられる事柄についてもお尋ねし、これに基づき具体的な支援策を考えることが合理的であると思います。
貝谷理穂子	緑にあふれる清潔な街並みの維持に関する事業について、公共の場に花があふれるのはとてもいいことだと思います。私の地元の最寄り駅は無人駅だけれど、町のボランティアの人がたくさん花を植えてくれて、毎朝明るい気持ちになれました。
高田彩加	緑を増やすために、緑のカーテン(グリーンカーテン)普及を推進する。学校などの公共施設で生育する、清掃活動に参加した人に苗木を配布するなど。特に子どもたちに育ててもらうことで環境教育にもつながる。

堺市中区地域計画における分野別要素“環境”に係る取組の推進について

4.不法投棄

太田佳世	不法投棄防止パトロールはもう行われていないのか。行われているならもう少し詳しく教えてほしいです。もし今やっていないのならやらなくなった理由も教えてください。同じ中区でも不法投棄が多いところときれいなところの差がすごいと感じます。
静又三	以前からの啓発活動や防犯カメラの設置等により減ってきているように感じる。まちなかギャラリー事業に関しては、以前より設置数が減っているような気がするのでもう少し増やしたら効果があるのではないかな。
藤田浩子	「登下校や遊んでいるときにゴミハンターになってみよう！」企画を提案。不法投棄を発見したら子ども自身が区役所に電話連絡する。子どもは自分の役割を認識することでさらに環境への意識が高まる。そして環境改善に努める大人へと成長する。親も子どもの姿を見て意識できるようになる。各学校園や子ども会等で広報すると良いのではないかな。
山本章雄	不法投棄防止対策に関して、先ず区内の「悪質不法投棄発生場所」を一覧にする作業が必要と考えます。これを踏まえ、①発生場所を区民に周知する、②発生場所近隣に「監視カメラ」と「警告表示」を設置する、などの具体策を講じ、「抑止効果」を目指した防止対策を行うことが必要であると考えます。
貝谷穂子	不法投棄パトロールに関しては、効果が出ているのならいいことだけれど、負担が大きいのと思うので、「まちなかギャラリー」と同じように不法投棄を未然に防止できるような何かを設置するのはどうかと思いました。一層のこと、ゴミ箱を設置するのはどうか。
桂恵輔	「まちなかギャラリー事業」について、実際深井駅の近くで実施しているところを見たことがあり素晴らしい取り組みだと感じました。この取り組みを落書き防止だけでなく、不法投棄防止のためにも活用してはどうかと思います。不法投棄の多い場所にもまちなかギャラリーを展開することで、不法投棄を防止することにもつながるのではないかな。
高田彩加	不法投棄防止に関して、パトロールは長年続いているが、いまだに多くの不法投棄があることが分かり、パトロールの効果がどれくらいあるのか分からない。特に不法投棄されやすい時間帯とされる夜にパトロールを行ったり、不法投棄が特に多い場所に対して、人が入れないように柵で囲うなど物理的対策を行ってはどうか。
三渡大介	中区の環境保全に対する取り組みは各所で見られ、感心させられます。中区にはさまざまな自然があり、これをどう守り、維持していくかが課題であると思います。具体的には、道でのゴミのポイ捨て(不法投棄)が見られ、住む人に不快感を与えているところが見受けられます。このポイ捨て等の注意喚起をうまく呼びかけることができると感じました。
米田啓吾	不法投棄について、自治会で月に一度程度掃除日を設け、町単位で行うことで地域全体がクリーンな状態を改善、維持することができるのではないかな。

5.省エネ

山本章雄	エコジカルな区役所について、区民の皆様に対し「見える化」を図るためには、省エネルギーをした「項目（電力使用・紙の枚数・ゴミの量など）」と「数値（ワット数・枚数・重さ）」を公表することが大切であると思います。できれば各部署の数値目標を事前に設定し、コンペティション方式（達成率競争）を行い、これを公表することで、当事者の意気込みを高めることも一策であると考えます。
山本章雄	省エネルギー意識啓発について、市民の皆さまの行動に関わる事項なので、ゴミの分別実行、ゴミの量、廃棄食品の量などの客観的な数字を地域毎にお示しし、現状を認識して頂くことが最初に必要なことであると考えます。「省エネルギー・アイデア展」を開催し、市民の知恵を出して頂くことも良いのではないかな。

6.自転車

金澤正巳	自転車の活用を増やせば、CO2の削減などの効果があると思うが、自転車に乗るうえでのマナーを小・中学生などの幼いころから啓発していき、事故などが起こらない環境づくりをしていく必要があるのではないかな。
廣幡亮太郎	自転車の利用促進のために道路に自転車ゾーンが設けられたと考えられますが、自転車ゾーンに車が侵入してきたり、バイクが通っていたりそもそも自転車が通れる環境ではない印象があり、安心して子どもや子ども連れの自転車が通れなくなっている現状があります。また、見通しの悪い道が多く、学校の近くでは歩行者と車の距離が近いにも関わらず、スピードを出して運転する車がある始末です。条例などで自転車ゾーンへの侵入禁止を定める及び学校周辺地区はスクールゾーンに指定し（市の役割）、警察と協力し自転車ゾーンの環境維持と『自転車利用促進のためのポスター設置を各種商業施設へ掲載をお願いすること』を提案します。
米田 啓吾	放置自転車について、特に駅周辺や大型店、商店街などで、駐輪場への案内、誘導をする目立ちやすい標識の設置、啓発チラシの自転車への貼り付けを行い、注意喚起をする。また、長期間持ち主が見つからなかったものについては、リサイクル販売を行ってはどうか。大阪府立大学学内にも数多くの放置自転車があるため、同様に行う。

堺市中区地域計画における分野別要素“環境”に係る取組の推進について

7.美化

金澤正巳	街並みの清潔さの観点で言えば、犬のふんなどが放置されていることを見かける。飼い主の方にはマナーとしてきちんと処理をしてもらうよう定期的に啓発を行う必要があるのではないかな。
静又三	清掃活動について、校区では年2回ほど実施しているが今はコロナの影響でそれも難しい。自治会に入る人の数が減少し、入っている人の負担が増加している。自治会の人たちの色々な活動や頑張りの結果、今きれいな街並みができてきているところを自治会未加入の方にも知ってほしい。そうすれば自治会加入にもつながるのではないかな。
静又三	ごみは一晩置いたままにしておく、2倍になってしまううえ、その増えているごみは捨ててはいけないうものが多い（分別されていない・回収日ではないなど）。汚いところにはごみが集まってしまう。きれいな状態を常に保つことが必要。
静又三	子どもから「おっちゃん！そこ捨てたらアカンで！」と言われたら心に来るものがあると思う。子どもや親を含めての啓発や取組を進めていくことで、地域全体の意識が向上するのではないかな。
澤本美奈子	生活環境について、工夫している商店やスーパー、コンビニの紹介をして、お買い物をする人に意識してもらおう取組を行っているかどうか。
中辻さつ子	大きな公園は老人会の方が、小さな公園は公園愛護委員の方がお掃除などしてくれている。また、団体ごとにエリアなどを決めて地域の清掃活動を行っている。継続してきた地域での美化活動によって、昔に比べてごみや煙草の吸殻のポイ捨てなどは減っているように感じる。一人一人が自分の家の周りをきれいにするという意識を全員が持てばきれいな街並みが保てるのではないかな。
貝谷理穂子	KPIの「堺市のまちなみの美しさに満足できるまちだと思いますか。」が令和元年の時に33.3%と、少し低いと感じた。個人的に、公園のベンチやトイレがきれいだったり、街路樹がよく整備されていたりしたら街並みが美しいと感じる。
神崎隆之介	以前、二サザイ古墳の周辺を訪れた際に、二サザイ古墳の周辺の道路や内濠に多数のごみが捨てられているという部分がとても気になった。二サザイ古墳は百舌鳥古墳群として世界遺産にも登録された土地であるので、地域住民や大阪府立大学の大学生と協力して二サザイ古墳の価値を高める活動として、地域の清掃活動だけでなく、環境の保全活動を行うべきであると考えている。
高田彩加	区民一斉清掃キャンペーンを毎年決まった日に行う。自治会ごとに区域を割り当てて、特に自分が住んでいる地域周辺の清掃活動を行っているかどうか。
陳代修平	大学生や高校生、中学生でゴミ拾いのチームをつくって、2週間に一回とか、定期的にごみ拾いを実施し、場所は地区ごとにぐるぐる毎回変わる。実施するたびにその地区で「中高大生がゴミ拾いを実施します、きてね！」と広報をうち、その地区の人にきてもらい、地区のコミュニティが交わる機会を作ったり、外の人と地元の人と交わる機会を作ったり、多世代交流をする。「ゴミ拾い」を通して清潔な町を作るだけでなく、地域コミュニティを活性化するきっかけを作る。
脇田利奈	大阪府立大学の豊かな自然を、中区地域計画の「中区の生態系保全に関する区民への周知啓発」の取組に活かせるのではないかな（実施検討中のキャンパスウォッチングがこれに当たるのでしょうか）。具体的には、府大のボランティアセンターや、女性研究者支援センター（小学生に対して科学の楽しさを伝える活動などもしている）などと、連携できるのではないかな。

8.食品ロス

太田佳世	地域内の飲食店や企業さん、農家さんなどフードロスがあるのなら、子ども食堂を通じて一緒にフードロス削減の取組をしたり、地域の子どもの環境を守るための勉強についても、つながるようなことができないかな。
高田彩加	「食品ロス削減」に関して、現時点で中区としての取組がないので、取り組むべきポイントだと思う。食品ロスの約半分は家庭から排出されているため、家庭向けの啓発活動を行う必要があると思う。購入した食材を使い切るための食材保存のポイントを広報紙などで特集したり、食材を使い切るためのレシピを紹介、あるいはそのようなレシピのアイデアを区民から募集するレシピコンテストの実施を行っているかどうか。
廣幡亮太郎	フードロスの削減を促進するために、地域の飲食店にはさらに食べきり協力店に参加してもらえるよう呼びかけ、小学校などではフードロスに関する授業を実施の上で、小学校の給食や飲食店における年比のごみの量等の調査を実施し、その増減と総量を勘案し順位を算出し、それを公表の上、表彰することにより、広報及びフードロスへの意識づくりができると考えます。

堺市中区地域計画における分野別要素“環境”に係る取組の推進について

9.環境問題全般

藤田浩子	環境問題を考えるとき、大人よりも子どものほうが意欲的に動いている場合が多いかもしれないと感じることがある。子どもをターゲットにした活動することで地域全体が刺激を受け、環境に対する意識が高まるのではないかと期待している。
森田裕之	環境的な取り組みはなかなか派手な活動は少なく、地味な活動に見えるかもしれないが、小さなことでも継続して取り組んでいくことが重要であると考えられる。
山本章雄	地域の環境に資する取り組みについて、「中区地域計画」は2025年までの行政計画を策定されていますが、これを中期計画と位置づけ「10年先の将来像」を見据えることの必要性も、第1章で述べられています。また、SDGsを計画の理念とされているのですから、「環境」においても「アクション・プラン」だけでなく「長期ビジョン」を検討する必要があるのではないかと考えます。特に、「環境」は長いスパン（期間）で変動することを考えますと、一層長期的な「未来像」を設定しておくことが求められていると思います。
桂恵輔	環境に関する絵を書いてもらい、それを展示することで、環境を守ることへの啓発にもつながるのではないかと。
西川佳希	子ども向けの環境問題に関する講演の実施を提案します。将来的な区の生活環境の良化のためには、子どもたちに環境問題に関心を深く持ってもらうことを目的とした子どもの向けの講演が有用だと思えます。子どもたちが家庭内に共有することを通して関心の輪を広げること、環境問題に関心を持つ大人を育てることが目的です。そして身の回りの大人と一緒に考える機会や、その思考内容をアウトプットしてもらおう場を設けることで、子どもたちはより深く、大人にも注意を向けることができるのではないかと考えます。
西川佳希	環境問題について啓発するには大人に対してよりも子どもに対してのほうが有効であるように感じます。私自身の経験では、子どものころに教育番組や学習教材を通して環境問題について考え、恐怖しておりました。しかし、アルバイトを通して大量の食糧や水を破棄する現状を目の当たりにし、はじめは衝撃でしたが利益の為には効率的だと理解しました。このような理解を一度した人の心の意識を変えるのは難しいと感じます。そこで利益の枠を組み外して「環境」について思考可能だと思われる小学生を対象にするのが有効だと考えます。
米田啓吾	夜中に公園やコンビニの駐車場などに中高生が集まり騒音やごみの不法投棄が問題となっている。地元の公園では、集まりやすいベンチに入れないように囲いをしていて、日中地域の方が座れなくなっている。警察による夜中の見回り活動を行うことが最善の策ではないかと考える。また、校区の地域安全指導課などの役員等が見回りすることで地域の住民が地域の安全、環境を守ることができるのではないかと。

10.生物・自然

伊藤久美子	中区でも、区民一人ひとりが参画できるような環境イベントに取り組む活動などを推進してほしい。例えば、泉北レモン活動のように、レモンの木を植えて、レモンの香りのする町にしていくような区民一丸となって取り組めるようなイベント推進を構築できれば、もっと連帯感やコミュニケーションの啓蒙活動につなげていけるのではないかと考える。
森田裕之	教育研究フィールドでは、これまでも小学校などの課外学習の受け入れなどを行ったり、堺市と共同でパイアの栽培や、泉北レモンの街ストーリーの取り組みの支援なども行ったりしてきた。コロナの感染状況が落ち着かなければ難しいが、レモンやパイア以外にも生育が容易な植物などを選択して広める活動は、街の美化につながるだけでなく、二酸化炭素の削減にも貢献する取り組みとして期待することができる。対象としては、できるだけ早い時期から環境に関係する活動に触れ、また植物の知識を深めるという点からは、小学生や中学生をターゲットとすることが良いと考えられる。
山本章雄	生態系保全の周知啓発について、区民の皆さんに「生態系とは何であるのか？」「中区の生態系がどのようになっているのか？」について知って頂くことが第一であるので、専門家による「講演会開催」「パンフレット作成」を行うことが必要であると考えます。また、自分ごと、身近なこととして意識して頂くために、「小さな自然見つけたコンクール」を開催し、多くの区民の皆様へ、改めて近所を見つめ直して頂くイベントも効果的であると思えます。
小倉弓果	中区には公園がたくさんあり多くの区民の方が利用しておられるので、公園やその周辺にいる生き物の観察会を開き、楽しみながら大阪に多い生き物、絶滅しかけている生き物、または外来生物などについて知ることで、身近な自然環境にも意識を向けてもらえるのではないかと考えます。
高田彩加	自然に親しみきっかけや生物多様性を感じることがあまりないように感じる。自然に親しみきっかけを作るために、中区にある自然(植物、虫など)をみつけてもらうイベントを実施(見つけた自然を写真に撮ったり、絵にかいたりして応募してもらうなど)してはどうか。
廣幡亮太郎	自然に親しむため、中区にある公園などで中区固有の生態系の説明や自然散策のコースを用意することを提案します。生態系への理解促進・区民の憩いの場への思い入れを創出させるとともに、この説明委員を高齢者の方に限定に募集をかけることにより、高齢者の活動の場を与えることになり孤立を防ぐための一つの施策になると考えます。

堺市中区地域計画における分野別要素“環境”に係る取組の推進について

11.その他

静又三	エコバッグを持って出ずに買い物に出てちょっと買いたくなる時もあると思う。しているところもあるが、ビニール袋ではなく、商品配送等に用いている段ボールを利用して持ち帰ることにするのはどうか。そしてその段ボールを地域の集団回収で出すことにより、集団回収をしてくれている子ども会の子どもの意識啓発にもなるし、店側も新たにビニール袋を備え付ける必要がなくなりエコなのではないか。
静又三	自治会活動をどう推進していくか、若い世代の自治会加入者をどう増やし、活動に参加してもらうかということが地域の環境の向上には一番大事なことだと思う。若い人との意見交換会をぜひとも行ってほしい。青少年指導員会や子ども会と自治会の間での交流や協力が今後より重要になってくると考えている。
中辻さつ子	自治会加入について、土師校区では新しいマンションが建ったりしているが、なかなか若い世代は自治会に入ってくれない。自治会に入る若い人がもっと増えて地域に関心をもってくれば、環境のみならず色々な取り組みが活性化するのではないか。
中辻さつ子	廃品回収について、地域では子ども会がしてくれている。昔は子ども会に入っている世帯も多く、加入者で行っていたが、今は加入世帯数の減少もあり、業者委託となっている。
陳代修平	アイデアコンテストとか、ビジネスコンテストをして、実践案を募集したら、いいアイデアが集まりそうだし、そういうコンテストをするだけで「中区はここに課題を感じていてしっかり取り組もうとしている」という広報になり、区内外の人に環境分野に関して、課題や取り組み内容に目を向けてもらえるきっかけになるのではないか。
廣幡亮太郎	現在はコロナ禍であり、講座や参加型ワークショップが難しいと考えますので広報の一環として中区のYouTubeチャンネルを立ち上げ、各種中区の環境団体さんとコラボし環境に関する啓蒙動画を発信したり、農水省のチャンネルなどは登録者数も多いので中区独自の取り組みをコラボし発信していくことを提案します。
廣幡亮太郎	大阪府立大学内（学生ではない人）や中百舌鳥駅前でスケートボードをしている姿が確認されています。提案は、『区内にスケートボードパークがあるのでそちらの利用促進を促す広報を打つこと』です。これにより、学内設備の破壊行為や通行人に対する危険行為などの区民の安全という生活環境の改善につながると考えます。
澤本美奈子	子どもから知らせる、啓発する意見が多く、その通りだと思いますが、今の子どもたちはゲームやティックトックに興味があり、学校で教えるにも授業とコラボできる提案が必要です。クラブチーム（サッカー教室、ソフトボールクラブ、野球、ミニバスなど）指導者、保護者が一緒に考えたり行動できれば、子どもたちも自然にごみ拾いやリサイクル活動に参加していけると思います。コロナの中でもできることから始めればよいと思います。

(すべて順不同、敬称略)

提出された意見は適宜整理、要約しています。